

栃木市にJ規格のスタジアムを誘致しよう！

スタジアムを新市のシンボルに！

栃木県総合スポーツゾーン構想に割って入ろう



スタディオン・ハルヘンヴァールト（ユトレヒト：オランダ）25,000人収容

栃木市でJリーグを開催しよう研究会

平成24年10月5日（金）市長説明用

目次

- 1) 本企画の全体像
- 2) スタジアムのある風景
- 3) 本企画のセールスポイント
- 4) 市長への要望事項
- 5) 栃木県総合スポーツゾーン構想について
- 6) 栃木市とスタジアムの適合性
- 7) スタジアム整備による効果
- 8) まとめ

1) 企画の全体像

本計画は、現在栃木県において企画されている『総合スポーツゾーン構想（競馬場跡地再開発）』に割って入り、球技専用スタジアムを誘致・整備し、これを新栃木市の象徴として機能させ、もって新栃木市としての一体感とアイデンティティの醸成を図ることを目的とする。

手段⇒

球技専用スタジアムの誘致・整備

施策
展開⇒

- ・ 巨大建造物の持つ魅力を発信（スタジアムそのものがシンボル）
- ・ スタジアムの持つ集客機能を活用（地域活性化）
- ・ スタジアムを使用した地元クラブの躍動・市民サロン併設（地域密着）

大目標⇒ **スタジアムが栃木市の核・シンボルとして機能する**
多くの市民の意識の中に、スタジアムの存在がある状態にする

目的⇒ **地域一体感・アイデンティティの醸成**

主に県の財源での整備を狙う

目的を達成するには、スタジアムがなければ始まらない！

2) スタジアムのある風景

スタジアムは球技専用。兼用では集客力が上がらない傾向あり。（Jリーグの現状から）



スタジアムが市の核になる。

スタジアムがあれば、住んでいて楽しい街になる！

3) 本企画のセールスポイント

以下の2点が本企画のセールスポイントである。

県財源を使って整備できる



一押しポイント！

市単独でスタジアムを建設するより**圧倒的に市負担は少額**である。
⇒こんなチャンスは、数十年に一度あるかないか！

競馬場跡地よりスタジアムの価値を確実に上げられる

スタジアムの価値＝利用頻度・集客・試合以外の活用方法
栃木市だったら、競馬場跡地に絶対に負けない。

- ・ 使用頻度：栃木市だったら、栃木SC以外、栃木ウーヴァ、ラグビーで活用可能。
- ・ 集客：栃木市は交通網が整備され首都圏からも近い。集客できる環境にある。
- ・ 試合以外での活用：スタジアムを核にした街づくり。（一体感醸成の施策として）

その他、スポーツ以外の興行による集客、集客による地域活性化等、スタジアムがあることによるメリットは大きい。合併した今だからこそ、地域一体化を押し出した施策も打ち出しやすい。

今こそスタジアム誘致を目指すべき！

4) 市長への要望事項

今回のスタジアムの件について、まず3点お願いをするものである。

知事・県議・市議会へのアピール

今回は県事業の誘致を目指すものであり、県政に関わる人物へのアピールが欠かせない。特に24年11月の県知事選においては、このスポーツゾーン構想が論点になる可能性もあり、その前に栃木市としての誘致の姿勢及びヤル気をアピールする必要があると考える。県知事、県議等へのトップセールスをお願いしたい。

役所内における検討会の設置

本計画は、役所内の様々な部署に関連するものであり（企画系、街づくり系、都市計画系、スポーツ系）、横断的な意見交換が欠かせない。関連する部署により組織された検討会の設置をお願いしたい。

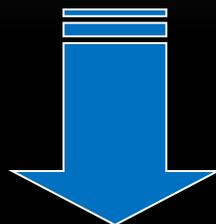
財源の検討

スタジアム整備費用の一部（数億円）を栃木市が負担する姿勢を見せれば、県としても無視できない話になる。スタジアム整備費用の検討をお願いしたい。

栃木市としてのヤル気を市長から発信！

5) 栃木県総合スポーツゾーン構想について

総合スポーツゾーン構想とは、宇都宮市の旧競馬場跡地の活用として計画されている構想。特にサッカースタジアムについては注目を集めており、陸上トラック付か専用球技場かで意見が分かれている。平成24年6月21日（木）に、第1回目の検討委員会が開催された。



ただし、この計画には様々な意見がある！

【スポーツゾーン構想にかかる様々な意見】

- ①競馬場跡地の地理的優位性については「あまり高くないが、活用は可能」
（出典 平成23年10月5日付下野新聞、県が実施した建設業者などへのアンケートから）
- ②スポーツゾーン構想は、県全体の均衡の取れた発展という見地から検討していくべき。
（出典 平成24年2月県議会、一木弘司議員の発言）
- ③防災機能を取り入れるべき。
（出典 平成24年6月21日検討委員会初会合、若林和雄議員の発言）

栃木市なら、この様々な意見に応えられる！

6) 栃木市とスタジアムの適合性

栃木市なら前ページの様々な意見に対し、以下のとおり応えられる。県内有数のスタジアム建設候補地であると言える。

立地的側面

- ・ 県内トップクラスのアクセス網を整備。首都圏からも近い。→集客に有利
- ・ 栃木市が災害に強いのは、先の大震災にて実証。→防災機能の整備に最適

スタジアム有効活用の側面

- ・ スタジアムの稼働率を上げられる。
→宇都宮では栃木SCのみ。栃木市ならプラス栃木ウーヴァFC。
その他、栃木市で盛んなラグビーとの連携も視野に入る。

施設の宇都宮一極集中是正の側面

- ・ 宇都宮市の県グリーンスタジアム（球技専用）は現在J1規格に改修中。
宇都宮市にJ1規格のスタジアム2つはいらない。
→県南の雄都として、栃木市に県施設があっても不思議ではない。

栃木市のポテンシャルをアピールしたい！

7) スタジアム整備による効果 (1)

スタジアムが整備できれば、栃木市において主に以下の効果が見込まれる。

大規模試合誘致による地域活性化 (市の課題：地域の活性化)

- ・ 栃木 S C 及びラグビートップリーグの開催により集客が見込まれる。
→ 栃木市でグリーンスタジアムと遜色ない栃木 S C 観客動員を達成した実績あり。
- ・ 2019年ラグビーW杯日本開催におけるキャンプ地誘致が視野に入る。
→ 間違いなく時期になれば注目を集めるビッグイベントに参加できる。
- ・ 2019年女子サッカーW杯日本開催の可能性あり。 これは会場候補になり得る。

地域スポーツ資源のフル活用 (市の課題：一体感・アイデンティティの醸成)

- ・ 栃木ウーヴァ F C の J リーグへの道が拓ける。
→ ウーヴァを最大限活用した街づくりの環境が整う。一体感醸成に寄与できる。
- ・ 高校ラグビーを中心としたラグビーの街づくりが可能となる。
→ 東日本の『花園』を目指し、ラグビー文化を根付かせ新市の顔のひとつとする。

総合型スポーツクラブの設立

- ・ スタジアム活用法を市全体で考える中で、総合型スポーツクラブ設立の機運が高まる。

栃木市ならスタジアムとWIN—WINの関係を築ける！

7) スタジアム整備による効果 (2)

スタジアムが整備できれば、栃木市において主に以下の効果が見込まれる。

スタジアムを中心とした街づくり

- ・黒部＝ダムというように、巨大建造物はそれだけで象徴的なものである。スタジアムにも同じことが言える。このスタジアムに日常的に通えるサロンの機能等を備え付ければ、市民にとって生活に溶け込んだ、まさに市のシンボルと呼ぶにふさわしいスタジアムとなる。

栃木市に防災拠点が整備される

- ・県民のみならず、栃木市民に対しても、最大限の安全・安心を提供することができる。

スタジアムがある街としての知名度アップ

- ・大規模試合では、全国各地（全世界）から人が集まる。魅力的なスタジアムであれば、人はそれに感動し、Web等を通して全世界に発信してくれる。スタジアムがあることで、そのスタジアムの所在地である栃木市の知名度も上げることができる。

栃木市ならスタジアムとWIN—WINの関係を築ける！

8) まとめ

栃木市こそが、スタジアムの価値を最も高められる場所である。

- ・スタジアムは、それ自体がシンボルとなり得る。
→1市5町（岩舟含）の既存物でなく、新市として全く新しい物として市民の中に君臨させることができる。新市の新しい歴史としてふさわしい建造物。
- ・スタジアムは栃木市を活性化してくれる。
→大規模興行を開催し集客することで、地域の活性化が図れる。
- ・スタジアムは地元クラブに新たな希望を与える。
→地元クラブを最大限活かせる環境を創出し、地元クラブが躍動すれば、スタジアムというハード面だけでなく、クラブというソフト面でのシンボルを創り出せる。地域一体感・アイデンティティの醸成につながる。

かつて、地域の核は神社であった。時代は移りその機能は学校になった。地域の核は時代によって移り変わる。多くの人に関わる場所が核とすれば、これからの時代は、スタジアムがこの機能を担っても良いのではないか。

スタジアムを街づくりの核として考えるべきである。合併して新市の核を探している本市にとって絶好の建造物であり、今だったら県の財源を使って整備できるチャンスである。今がまさに取り組み時である。

合併の今だからこそ、栃木市にスタジアムを整備しよう！

【参考資料 1】

研究会の考えるスタジアム像

スタジアムコンセプト

- ・ 1万5000人～2万人収容球技専用スタジアム⇒臨場感を重視
- ・ 駅から歩ける範囲（約2km）⇒集客上、車以外でのアクセスを考慮
- ・ 街の核となるスタジアム（多機能複合型スタジアム※）
※商業施設、健康増進施設等、試合会場以外の要素で求心力のあるスタジアム

研究会の考えるスタジアム像



市民交流機能
（市民向け）
プラッツ大平
類似施設



スタンド下
スペース活用



屋上に + スタジアム



スタンド下
スペース活用



観光案内機能
（アウェイ観客向け）



ショッピングセンター併設
（平屋）

コンセプトは日本のどこにもないスタジアム！

【参考資料 2】

スタジアム建設費用とスポーツイベントの経済効果

スタジアム建設費用

スタジアムは専用スタジアムで整備すべき。陸スタで整備して観客を集められる大会をどれだけ誘致開催できるか？できないのであれば、わざわざ臨場感を損なう陸スタで整備する必要はない。



ベストアメニティスタジアム(佐賀県鳥栖市)

施設所有: 佐賀県鳥栖市(人口約7万人)

建設費用: 約67億円

観客席数: 24,490席

スポーツイベントの経済効果

栃木SCの経済効果(下野新聞2月28日記事)

宇都宮市にもたらした経済波及効果は**10億8,200万円**

(選手・スタッフの人件費、そこからの波及効果を除く) うつのみや市政研究センター実施

まずは、県の財源でスタジアム整備を目指す！

仮にダメだったら、1万人収容スタジアム(J2規格)の市単独建設を目指す。